

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700031		
法人名	有限会社さわやか門前		
事業所名	グループホーム浜		
所在地	佐賀県鹿島市浜町乙2591-1		
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・丁寧な言葉使いをして、安心して生活していただける。                  ・リフトを入浴時とベッドからの移乗時にそれぞれ利用し、入居者の拘縮予防と、職員の介護負担軽減に努めている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは酒蔵地区の静かな景観の中に位置している。玄関を入ると目の前に季節の壁紙があり、季節を室内にて楽しむことができる。敷地内にある柿の木は実がなると地域の方におすそ分けをしたり、野菜など地域の方から差し入れがある。食事も地域の食堂より、取り寄せて提供しているなど、地域とのつながりが深いホームである。入居者、職員の介護負担の軽減を図り、リフト機を使用し、入浴介助や移乗介助を行われている。また、地域の方にも使ってもらえるよう、AED設置ステッカーを外から見える場所に設置されている。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和5年1月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝の申し送り時に、理念を共有し、全職員が理念を意識して実践が出来るように、ケアプランにあげ、実践している。	事務所のテーブルなど常に目に見える場所に理念が掲示している。申し送り時に唱和されている。しかし、職員の理念の認識にはバラつきがある。	理念に対し、具体的な目標を掲げるなど各職員の理念への認識を進めて、今後も理念の共有と実践に取り組まれるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に住まれていた入居者の家族さんが、よく面会に来られる。コロナ過なので窓越しで、とても喜んでおられる。隣近所の方と会うときは、世間話などし、野菜を頂いたりしている。	コロナ過で地域行事は中止であるが、近隣の方と挨拶を交わし、地域の回覧板も回ってくる。地域の溝掃除などに参加して、日常的に交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症サポーター養成講座を開催していたが、現在はコロナ感染予防の為出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーにまだ書面での連絡と意見がある方は連絡をとお願いしている。またコロナ陽性者が増えてきている為、書面のみでお願いしている。	コロナ禍にて、書面での開催となっている。内容は、ホームからの情報提供や報告が中心となっており、メンバーとの意見のやり取りは十分とは言えない。	書面開催においても、メンバーの意見を聞いたり、返答をもらえるような取り組みの工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の書類を渡したり、居室の空きが出た時は、入居者の連絡をお願いしたりしている。	市の担当者とは相談や意見交換ができ、その都度回答をもらっている。市が開催される研修会にも参加し協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在ベッド柵などの身体拘束はしていない。入居して間もない方が、玄関、窓などを開けようと何回もされる為、玄関、掃き出し窓には鍵をしている。説明すると「そうね」と言われる。	職員全員が身体拘束について理解はしているが、新しく入居された方の安全のため、現在玄関の施錠をしている。これまで、身体拘束を一時的なものとし、解除してきた実践がある。	今後、玄関の施錠を外せるように、職員全員で検討し合い、取り組まれることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を、3か月に一回ミーティングで職員と話し合い、虐待がないように注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を使用しておられた方が、以前おられたが、現在はおられない。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学んでいく必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に出来るだけ丁寧に説明をと考えている。ケアプランや他の書類関係の説明なども、話しかけてもらいやすいようにと想いながら話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望を聞いたときは、すぐに職員にも伝え、ケアプランにも上げて実行している。定期受診は、基本家族へお願いしているが、家族の体の状態の変化などにより、職員が受診に付き添っている。	家族より要望があれば、ケアプランにあげている。定期受診は家族との受診をお願いしているが、家族の要望によっては職員が受診対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を聞く機会を設けてはいないが、それぞれに、疑問や意見、きずきを話してくれて、それを良い方向へするにはと、職員で話し合っている。	管理者は、会議などで職員より意見が出やすいような雰囲気作りに努め、日常的にも、職員との会話の中での意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場であるように、希望休、年休の100%推進、話し合いにより遅出の時間の変更等々実行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護キャリア段位制度を利用して、トレーニングを勧めたり、その時々介護の仕方を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH交流会に参加して、認知症について、虐待防止について、感染症についての勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めてで不安の方でも話相手になり、出来ることはお願いし、安心して生活してもらえよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安がないように話を聞き、安心して頂ける様に、信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人への支援、家族の要望、ホームでの支援内容を、話し合い・検討をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見つけ、本人にやって貰うことで、やりがいを感じて、双方の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困ったことなど家族様に電話で相談・確認しながら、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの時など自宅など通り少しでも思い出されるように支援している	コロナ過の為、ドライブは小規模としているが、入居者の自宅の周辺まで行くなど、馴染みの関係の継続を支援している。また、地元馴染みのある食堂より食事を提供してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さまどうしの関わりがあまりない為、難しいが、体操・レクレーション時、集まってもらい、孤立などないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、家族の方とお会いした時など、気軽に挨拶を行い、その後の様子などを伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をし、その方がどんな事を望んでおられるのか、どんな事をしてもらいたいのかを、見いだせるように時々話題を変えゆっくり話を聞き検討している	意向が話せる入居者とは、職員も話しやすいようソファーと一緒に座りゆっくりとした雰囲気を作りながら、意向を聞いている。意向を伝えるのが困難な入居者については、行動や仕草などから読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子など、特に楽しかった事等を思い出して頂く様に傾聴を行い記録をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日の生活リズムの変化、ADLの変化、残存能力を出来るだけ使ってもらうよう努め、それぞれに変化があれば、記録し共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングの時話し合い検討し、現状に即した介護計画の作成が行われている。	定期的には6か月ごとに介護計画を立てている。必要時には、適宜見直しをし、現状に即した計画を立てている。タブレットにて、経過記録が作成され、見やすく管理しやすい工夫も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護計画を基に実践・結果を記録し共有を行っている。 気づき、検討等は個別に話し合い、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に捉われず、本人本位をベースに試行錯誤し、一人ひとりの笑顔が増える様に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の食事には、近隣の食事処から注文し、慣れ親しんだ味を楽しんで頂いている。コロナ過で面会も家族限定で窓越しに話されるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に出来るだけ家族様送迎にて、受診をお願いし、無理な場合はホームから付き添い、直近1か月の記録を医療の参考に準備している。	かかりつけ医の受診には、家族の協力も受けて定期受診を行ってる。緊急時や家族送迎が困難な場合には、職員が付き添うなどの体制も取ってる。往診の主治医もおり、それぞれのかかりつけ医と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の様子と違い、様子観察で続く懸念点はすぐに管理者、訪看に指示をあおいている。訪問看護ステーションと契約し、定期的に訪問実施し、適宜連絡・対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、管理者や訪看が病院関係者ソーシャルワーカーと連絡しながら職員も共に支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて契約時からGHで現在できる事を話し合い、GHの作成資料に基づいて、ミーティングで話し合いをしている。家族様へ、GHの対応方法、医療の関わり等、説明・支援している。	ホームでは看取り介護に関する同意、重度化・終末期対応の指針を作り、契約時に本人・家族へ説明をしている。状態が重度になられた際は、家族、主治医、ホームと話し合いを重ねて、全ての意見が一致すれば看取りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習会や緊急時の対応等の研修を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や水害時の災害想定訓練をし、大雨の時は別ユニットから速やかに避難し一夜泊まった。訓練は、定期的実施している。	年2回の火災避難訓練を行っている。実際に時間を測定しながら避難訓練を行い、別の系列のホームで1泊体験も実施している。水害の時のライフジャケットも準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを行い、本人の意思を重視した支援を行っている。 声掛けに対して拒否がある場合は、丁寧に説明し、納得してもらえるよう努めている。	一人の入居者に対して、本人や家族の同意を得て、見守りカメラを設置されている。カメラの扱いについては、プライバシーへの配慮を十分に行なっている。また、一人ひとりにあった言葉かけをして、入居者へ気になる言葉かけがあったときは、職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いや、考えを理解し安心されるような傾聴を行い、言葉に出こない時は、気持ちを補い意思疎通が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に悪影響な行動の希望以外は、利用者様に合った対応を心がけ、出来るだけ本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	元気な利用者様は、入浴の時など職員と相談しながら、好きな衣服を選んでもらい着ていただいている。 定期的に散髪を行い、清潔にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事もバランスよく盛り付け美味しく食べて頂けるよう提供している。 元気な利用者様は、見守り必要だが、出来る事を頼んでして頂いている。 準備と、食事は一緒に出来ていない。	地域へのコロナ支援の一環として地元の飲食店より、料理を提供してもらっている。入居者へは、台拭きや食器ふきなど役割作りを行い、年間様々な行事食なども用意し、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合った食事形態を提供し、食事量・水分量等記録し把握している。 水分量の少ない方は、好まれる物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	言葉かけ出来るだけ口腔ケアをして頂いている。できない方は、ブラシ・スポンジ等使用し、無理しないように介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て言葉かけを行い、失敗がないように支援している。おむつ交換も定期的に行っている。	排泄のパターンを把握し、トイレへの誘導を行っている。また、オムツ使用者も、排泄間隔をみて随時交換している。トイレ誘導の声掛けも羞恥心に配慮して適切に行うなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し、支持を仰ぐ。腹部のマッサージや、牛乳やヤクルトを飲んで頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回体調がいい時に施行している。個々に合わせシャワー浴やリフト浴でも支援している。	毎日3人程度が入浴され、時間もゆっくりと入浴ができるよう配慮されている。入居者の気分や体調に合わせて日付や順番の変更ができ、体の負担を考慮してシャワー浴やリフト浴も支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医師の指示に従い、処方された薬を使用したり、昼間は出来るだけ起きて、食堂で過ごして頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように、服薬の前に名前と日にちを言った後に、服用していただく。服用後も飲みこぼしがどうかを注意してみている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の出来る事をさせていただく。体操、塗り絵、ドリル、洗濯物たたみ、食器拭きなど。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は、日光浴や、ドライブなどを行っている。ドライブでは、自宅近くを通ったり、買い物に行ったりしている。	天気がいい日は、敷地内外気浴を楽しんだり、近所を散歩している。また、コロナ禍で小規模ではあるが、ドライブにて、近隣や自宅の周辺に行くなどの、外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を所持し、希望に応じて使用できる支援は行っていない。 必要なものや、希望されるものは、代理で買い物に行き立替えている。 コロナ過という事もあり、外出できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方等と話しをしたいと思われている方は、携帯電話を所持しておられ、自身で会話をされている。着信に気付かない、相手が出なくて心配されている時、支援をしている。 本人が手紙のやり取りを行う支援はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様各々の、主張や気持ち、行動に寄り添い、座席の配置を行っている。 ほかの空間においても、不快・混乱が生じるような事はない。	入居者の意見を取り入れ、食事のテーブル配置を決めている。ホールには大きな窓があり、室内からも季節を感じることができる。職員も不快な音や声の大きさにならないよう、配慮して居心地よい共用空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーにゆったり座りくつろげる場所、横になり休める場所を設けており、居場所づくりはできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さまそれぞれの好みや、必要なものを選ばれ配置している。 リスクがあるものは極力排除し、安心・安全に過ごせるようにしている。	入居者や家族の写真を飾られて、使い慣れたタンスなどの持ち込み、居心地よく過ごせるように、配慮されている。状態に応じて、ベットやポータブルトイレを用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不安のある利用者さまには、夜間ポータブルトイレをベッド横に設置して使用して頂いている。		